

## 26年5月分 製品市場の荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成26年 4月20日～ 26年5月10日

## 2. 調査実施方法

全国の製品市場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
5月分の回答企業数は7社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## (1) 荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/5月	6月	7月
入荷動向	国産材製材品	16.7	16.7	16.7
	外材製材品	11.1	△ 5.6	△ 5.6
	その他	8.3	0.0	0.0
販売動向	国産材製材品	△ 55.6	△ 33.3	△ 27.8
	外材製材品	△ 38.9	△ 27.8	△ 27.8
	その他	△ 41.7	△ 33.3	△ 33.3
在庫動向	国産材製材品	33.3	27.8	22.2
	外材製材品	22.2	11.1	0.0
	その他	0.0	0.0	0.0

国産材製材品の入荷は増加傾向で推移、外材製材品は5月の増加が6,7月にはやや減に、その他は5月の増加が6,7月には横ばいに。

販売は、いずれの品目も減少傾向で推移。

国産材製材品の在庫は増加傾向で推移、外材製材品は5,6月の増加が7月には横ばいに、その他は横ばいで推移。

## (2) 価格動向 Weight. D. I.

品目		26/5月	6月	7月
スギ	柱角 KD10.5×3	△ 11.1	△ 11.1	△ 16.7
	柱角 KD12×3	△ 11.1	△ 11.1	△ 16.7
	通し柱 12×6	△ 12.5	0.0	0.0
	桁角	△ 16.7	△ 11.1	△ 11.1
	母屋角	△ 11.1	△ 5.6	△ 11.1
	タルキ	0.0	△ 11.1	△ 5.6
	間柱	△ 16.7	△ 11.1	△ 11.1
	加工板	△ 6.3	0.0	0.0
	ヌキ	0.0	△ 11.1	△ 11.1
	平割	△ 5.6	△ 16.7	△ 16.7
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	△ 50.0	△ 33.3	△ 11.1
	柱角 KD12×3	△ 55.6	△ 44.4	△ 16.7
	土台角 10.5×4	△ 50.0	△ 38.9	△ 11.1
	土台角 12×4	△ 50.0	△ 38.9	△ 11.1
	通し柱 12×6	△ 31.3	△ 25.0	△ 6.3
カラマツ土台角10.5×4	0.0	0.0	0.0	
米マツ平角	0.0	0.0	0.0	
米マツ割物	△ 11.1	△ 5.6	△ 5.6	
北洋エゾマツタルキ	△ 25.0	△ 12.5	0.0	
北洋アカマツタルキ	△ 16.7	△ 11.1	△ 5.6	

スギ柱、桁、母屋、間柱及び平割の価格は弱保合で推移、通し柱及び加工板は5月の弱保合が6,7月には保合に、タルキ及びヌキは5月の保合が6,7月には弱保合に。

ヒノキ製材品は、いずれも弱含みないし弱保合で推移するも、7月に向けマイナス幅が縮小。

カラマツ土台及び米マツ平角は横ばいで推移、米マツ割物及び北洋アカマツタルキは共にやや弱保合で推移、北洋エゾマツタルキは5,6月の弱保合が7月には保合に。

## モニターからのコメント

・ヒノキ土台角、柱角は入荷増、外材も入荷増。販売は全てにおいて減少傾向。在庫も全てにおいて増加傾向。スギKD柱、桁及び母屋角（グリーン）は価格下落、羽柄材は量的に増加傾向、ヒノキ構造材は、ほとんど全てにおいて下落も、通し柱は量的にすくなく横ばい。米マツ製品は少しずつ増加傾向、価格も下落傾向、エゾマツ及びアカマツタルキはまだ在庫多くやや下落傾向。・入荷は、ヒノキ構造材役物に増加傾向、羽柄材はスギ、ヒノキともにさほど増加せず。国産材製材品は予想内だが販売が目に見えて減少。国産材製材品の流通量も雇客の在庫量も3月に増加。東海地区はスギの使用量少なく柱、桁とも良材のみの使用のため単価はしっかり、小割、羽柄も横ばい。ヒノキ製材品特に柱及び土台は下落傾向、通し柱は横ばい。・入荷はスギはほぼ横ばい、ヒノキは増加気味、外材は横ばい。4月に引き続きヒノキKD材のプレカット工場の引き合い少なく、価格も下がる。外材も含め販売は全体的に減少のために在庫は増加。・製材所の丸太少なく7,8月心配、WW4m及びアカマツタルキ3mが少ない。全体に動き少なく、土台、桁及び母屋はプレカット使用でアッセンブル多く不良材が出る。スギ羽柄材、ハフ（破風）板などプレカットで加工の動きなく、預かり在庫多くなっている。スギ製材品動き悪くKD柱65,000円、グリーン桁40,000円、母屋、タルキ45,000円、間柱66,000円、加工板グリーン1束2,800円、KD1束3,800円、ヌキ秋田50,000円、同岩手45,000円、平割プレーナー48,000円、同ラフ40,000円、ヒノキも全体に動き少なくKD柱95,000円、土台95,000円、米マツKD平角70,000円、同割物65,000円、北洋アカマツタルキS68,000円、同P58,000円。・国産材丸太の出材量はそれほど多くなく、製品入荷量も多くない。構造材、特にヒノキの荷動き鈍い、羽柄材は構造材ほどは鈍くない。荷動き悪い割には在庫が多いわけではない。スギ柱、桁は荷動き悪く、梅雨明けまで続きそう。母屋、タルキ、間柱、加工板ヌキ及び平割は荷動き悪い割に入荷も少ないが今後だぶつく可能性もある。ヒノキ製材品は昨年からの急激な価格上昇の反動大きく、他樹種への変更も見られ、動き戻るには時間かかると予想。・入荷は、5月良くない。販売動向良くない。在庫変わらず。販売価格はスギ横ばい、ヒノキまだ横ばい下落の動きあり。米マツ横ばい、北洋タルキ横ばい。・原木価格高止まりで入荷横ばい。増税の影響か新年度から販売やや不振。需要はうすいが入荷も少なく在庫はバランス取れている。スギ正角は原木高で価格はやや高、もしくは横ばい。スギよりもヒノキの方が価格維持難しい。米ツガ土台は素材価格横ばいで製品も横ばい、米ツガ割物はコスト高も需要下降のためやや低調。米マツ平角は大手工場も変動なし。RW平角はやや下降気味。針葉樹合板はメーカー側は堅調な値動き予想も、市況の影響が反映されないのか。